

九州民放クラブだより

熊本

平和のメッセージ

池田さとみ(RKK)

私は熊本朗読研究会に所属しています。会では、徳永直、夏目漱石、小泉八雲の忌日、終戦記念日等特定な日に朗読会を持ってきました。中でも「平和のメッセージ」は大切にやり組んできたもので、昨年は12月5日に開催しました。



朗読中の池田さとみさん

今回の朗読会には大人50名に高校生以下男児3名と女児2名の子ども達も参加して貰いました。まず峠三吉の詩『小さい子』、次いで小説『金のひしゃく』(北斗七星になった孤児たち)、そして、中心に据えたかった井上ひさしの『子

供につたえる日本国憲法』でした。

安倍政権は、国民の大多数の反対があったにも拘らず、日本を戦争の出来る国に変えようとしていきます。

憲法九条なんて閣議決定でどうにでもなるさと言わんばかりです。立憲主義はどこに追いやられたのでしょうか。

でも、私たちは愛おしい子や孫たちのためにもここで立ちすくむわけにはまいりません。

今一度、日本国憲法を学びなおしてスクラムを固く組みましょう。そんな思いで、この本を読みましかせてください。

この日、参加してくれた子どもたちも一緒に朗読をしながら「戦争はだめだね」という声を沢山聴かせてくれたのです。

丸ごと一冊45分の超大作でしたが、聞き手と読み手が一つになれたと実感できた朗読でした。

因みに熊本朗読会は、熊本民放クラブから助成金を頂戴しております。感謝しています。

これからも地道な活動を続けていけたらと思っています。

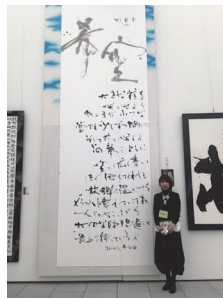
大分

活躍する大分の女性会員たち

☆書道家・中村春蓉さん(TOS) 現代文や詩歌を題材にした「近代詩文書」部門で活躍する女性書家。近代詩文書は、歌・俳句・短歌・ポエムなど親しみやすい題材

が多くの人から支持を得ている。表装デザインは彼女自身が手掛け、絵を鑑賞するような気持で生活のインテリアの一部になっても

らえればと話す。書道家の母のもと、妹と共に幼い頃から書に親しみ、いつかは海外で個展をと語る春蓉さん。



「希空」高さ4m60cm

今年、県立美術館での「大分の新女流書展」から

まずは先日のテロ事件で中断したままの、日本人女性3人によるパリでの「シャンソンと着物と書」のコラボを実現したいという。

現在、毎日書道会審査委員・創玄書道会一科審査員・大分県美術協会書道部嘱委員など。

☆染色家・吉井梢さん(OBS)

九州でも数少ない「型絵染」作家として創作活動を行っている。

日展には過去16回入選し現在は日展会友。日工会評議員と大分県美術協会の常任委員でもある。



「南風の棲む島」日展出品作品

そもそも高校時代の家庭科で習った「型染め」が心の奥深くにあったといい、その後ご主人の転勤先の東京で出会った小林今日子先生の作品の虜になり彼女の教室に通い「型絵染」の世界に入る。

再びご主人の転勤で大分に戻ると県美展への出品を勧められる。

会場で作品を見た竹工芸・白石白雲斎先生から「日展へ出品しませんか」と促され出品した作品が1回目入選。下絵から完成まで3カ月、森の心象風景や沖繩の風景が多い。

今年最後となる自宅ギャラリーでの作品展は4月21日から。